



NPO法人 AWAがん対策募金【あわがん】

家族にがん検診を呼びかけるメッセージカードを書くようす（あなん健康まつりにて）



家族にカードを書く高校生



いつもありがとう、がん検診を受けてください

がん検診で早期がんを発見し、適切な治療を受ければ、がんで亡くなることを防ぐことができる。けれども症状のない時にがんを見つける重要性は十分に知られておらず、がん検診を受けない人が多い。がんは、若くても、健康だと思っけていても、誰もがなり得る。この現状に対し、NPO法人AWAがん対策募金【あわがん】は、企業や個人から寄せられた寄付金を活用して、がん検診の啓発や、子どもを持つ患者への給食費支援などの活動を行っている。

がん検診率を高めるため、【あわがん】は県内の健康イベントや大学、高校などで、子どもから家族や親しい人に向けてがん検診の受診を呼びかけるメッセージカードを書いてもらい、検診を啓発する取組を行っている。子どもたちはカードに、「母さん、いつも仕事で疲れているのに家事をしてくれてありがとう。ずっと元気でいてほしいから、がん検診を受けてください」などと、普段は言えない素直な気持ちを書き、家族に届ける。「子どもにも言われると検診の後押しになる」と話す、代表の勢井啓介さん（西路見町・64歳）は、16年前にS状結腸がん（ステ



スーパーに設置された募金箱



医師、看護師、患者会等のメンバーが取組について話し合う

ージ4）を経験した。この進行がんは肝臓と肺に転移。3年間の懸命の闘病を経て完治した。勢井さんは、「もう少し早く検診を受けていたらよかった。奥さんの勧めもあったのに」「がん検診は、自分のためだけでなく、家族のために受けなければいけない」と語る。

がんになると、治療に必要なお金の負担も大きな心配事の一つになる。そして困っていても人に経済的な相談をすることは難しい。【あわがん】は、がん患者の経済的負担を支援したいと考える企業や個人の寄付の受け皿となり、小中学生の子どもを持つ県内のがん患者を対象に、給食費を支援している。個人からの募金は、県内のスーパーやカフェ等に設置された募金箱や、寄付金付き自動販売機の売上から集まっている。医療従事者や家族からだけではない、この地域社会のサポートは、がん患者の助けになっている。

メンバーは、「誰でもなり得るがんに関心を持って、健康なうちから、家族のためにもがん検診を受けてほしい」と呼びかけている。

募金や入会のお問い合わせは、NPO法人AWAがん対策募金【あわがん】（☎23-3553）へ